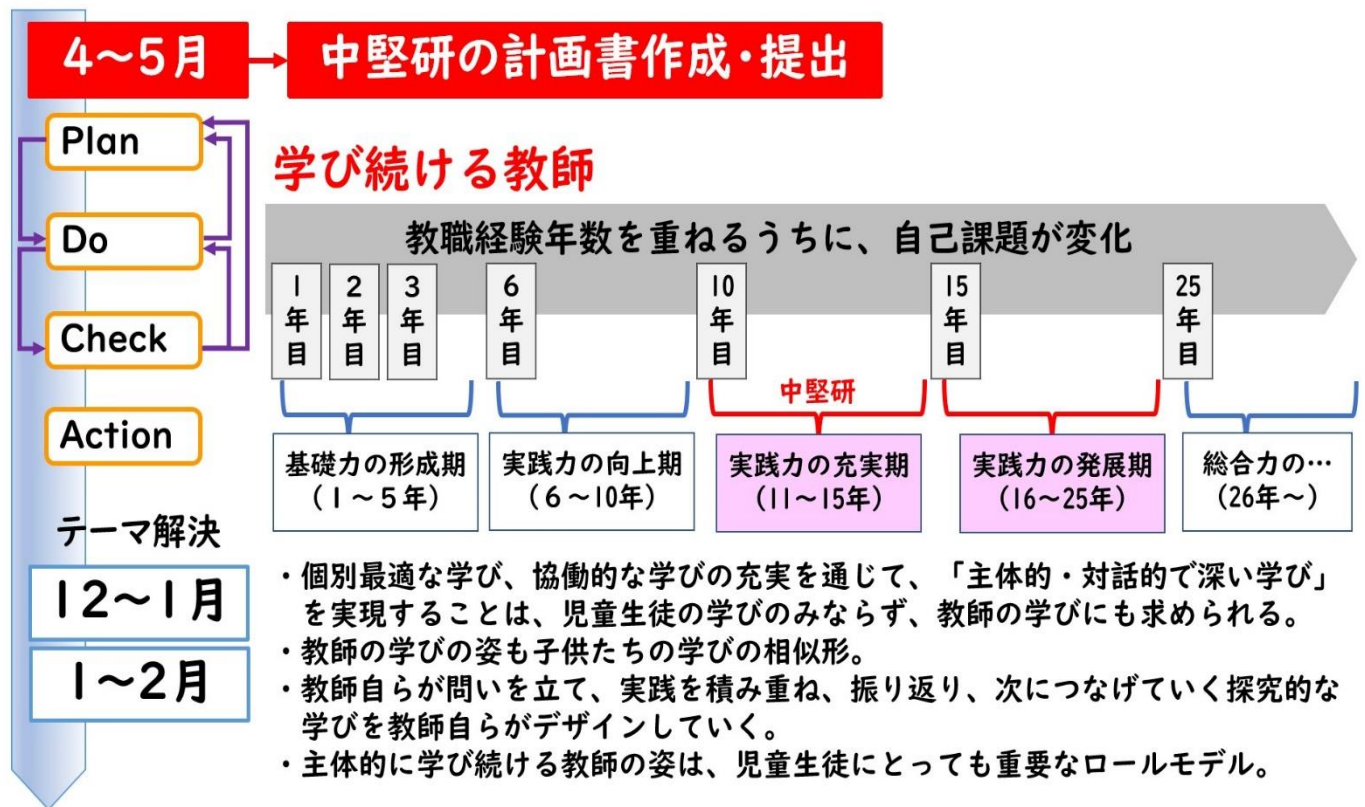


中堅教諭等資質向上研修

自己研修の意義と進め方



<自己研修の意義>

中堅教諭等資質向上研修対象の先生方は、教員等育成指標に示されたキャリア・ライフステージの「実践力の充実期」、又は「実践力の発展期」に該当します。

研修には、大きく分けて3つの種類があります。1つ目は、必ず受講しなければならない中堅研のような法定研修。2つ目は、受講義務はないが、教師としての資質向上・課題解決のために自ら希望して受講する研修。3つ目は、自分でテーマを設定し、PDCAサイクルを回しながら課題解決を図っていく自己研修となります。

中央教育審議会の令和4年答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」では、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみならず、私たち教師の学びにも求められるものであり、教師の学びの姿は、子供たちの学びの相似形であるべきだと示されました。

私たちは、自ら問いを立て、実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを、自分でデザインしていくことが求められています。学びや研修に対する考え方の転換を図り、これまで以上に自分自身の学びのテーマについて常に強い意識を持ち、自己研鑽に励むことが大切です。

キーワードは、「学び続ける教師」です。

4~5月

中堅研の計画書作成・提出

Plan

Do

Check

Action

テーマ解決

12~1月

1~2月

様式2-1 各学校用【小学校】 (A4判(縦置き・片面印刷)とする)

令和5年度中堅教諭等資質向上研修計画・報告書

- 1 対象者 職員番号・氏名
- 2 担当教員 職・氏名
- 3 研修計画

(1) 校内研修 <15~20日間>

① 自己研修 <10~15日間>

【テーマ】

★キャリア・ライフステージで求められる資質の向上につながるテーマを設定すること。
 ★自己研修シェアリングでは、各自の取組の交流を通して、「実践力の充実期」に求められる役割(学校経営への参画、マネジメント力等)をどう意識し、どのように実践に取り入れてきたのかについてグループ協議を行う。

育成指標	小学校・義務教育学校前期課程教諭 研修項目	指導担当	研修日					確認欄
			①	②	③	④	⑤	
教員としての素養	・専門職としての教員在り方							
学習指導力	カリキュラム・マネジメント ・教育課程編成の手順 ・年間指導計画・単元構想の作成(指導案検討)							
	教科教育等の専門性 ・各教科における見方・考え方を働かせた授業 ・授業におけるICT機器の活用 ・指導力向上に向けて(授業研究会)							

<計画書の作成①>

中堅研の計画書は、4月、又は5月に教育委員会に提出します。

自己研修は、上記左側に示すとおり、テーマを設定し、実践と省察を繰り返しながら、次第に改善を図っていくアクションリサーチという手法で行います。

研修を進めるに当たって大切にすることは、自分自身の思考や行動を客観的に把握し認識する視点、つまり「メタ認知」をしながら進めることです。自分の実践をメタ認知した結果、うまくいっていないと判断する時は、PDPD、PDCP等何度でも戻りながら進めてください。試行錯誤していくことで、課題解決の方向性が見え、子供の姿もより見えるようになります。

自分自身をスキルアップするためには、上記赤枠で示した自己研修のテーマに何を設定するかが重要です。

4~5月

中堅研の計画書作成・提出

校長及び教員としての資質の向上に関する指標(教員等育成指標)

(教諭)	基礎力の形成期 (23歳~27歳) 1~5年	実践力の向上期 (28歳~32歳) 6~10年	実践力の充実期 (33歳~37歳) 11~15年	実践力の発展期 (38歳~47歳) 16~25年
キャリア・ライフステージ 年齢 (目安) 教職経験年数 (目安)	学級担任、副担任等			
校内での役割	初任教における学校勤務の経験を通して、初任校における学校勤務の経験を通して、教諭としての基礎的な職務遂行能力を身に付けている。		中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教員との資質向上を支援しながら、校内外に広く目を向け、関係者と連携して学校経営を牽引している。	
目指す教員像	複数の学校勤務の経験を通して、教諭としての基礎を確立し、自らの実践を常に振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。		学校運営の中堅として、学校全体を見渡して視野を持ち、若手教員の模範となりながら職務遂行能力を更に高めている。	
岩手の基本研修 (キャリア・ライフステージに応じた基本研修)	初任者研修 2年目研修 3年目研修 教職経験者5年研修 (6年級)	中堅教諭等 資質向上研修 (11年目)	中堅教諭等 資質向上研修 (11年目)	ステージアップ 研修(45歳~)
1 自ら学び続ける意欲・探究心	個別最適な学びと「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、若手の「愛情を持ち、真摯に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。		社会の変化、キャリア・ライフステージに応じた役割を果したとともに、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って学習指導を実践している。	
2 学習指導力	「学校教育目標に基づき教育課程を理解し、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って、学習指導を実践している。」		「教育課程の編成・実施・評価・改善を主体的に進めながら、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って学習指導を実践している。」	
3 生徒指導力	「各教科等に求められる資質・能力や、指導と評価に関する理解のもと、教材研究等を実践している。」		「各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、指導と評価の改善を図りながら、教材研究や教材開発を実践し、若手教員に模範を示している。」	
カリキュラム・マネジメント	「児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から、学習者中心の授業となるよう善を図っている。」		「児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、学習者中心の授業実現の観点から、積極的に研究授業の授業を務めると、若手教員に模範を示している。」	
教科教育等の専門性	「学級経営の方針に基づき、集団指導及び個人指導の両面から、全ての児童生徒に対する必要な生徒指導を実践している。」		「多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。」	
豊かな学力を育む授業	「学級・学年・部活動など様々な場面において、多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。」		「多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。」	
権かな学力を育む授業	「学級・学年・部活動など様々な場面において、多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。」		「多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。」	
生徒指導力	「学級経営の方針に基づき、集団指導及び個人指導の両面から、全ての児童生徒に対する必要な生徒指導を実践している。」		「多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。」	
発達支持的生徒指導	「学級・学年・部活動など様々な場面において、多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。」		「多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。」	

<計画書の作成②>

テーマを設定するに当たっての留意点については、計画書の様式に「計画書の作成に当たっては、キャリア・ライフステージで求められる資質の向上に繋がるテーマを設定すること」と記載があります。キャリア・ライフステージで求められる資質は、教員等育成指標の上記赤枠、青枠部分に示しています。

4～5月 → 中堅研の計画書作成・提出

実践力の充実期（11～15年）

〈教諭・養護教諭の目指す教師像〉

学校運営の中堅として、学校全体を見渡す視野を持ち、若手教員の模範となりながら、職務遂行能力を更に高めている。

〈栄養教諭の目指す教師像〉

施設運営の中堅として、施設全体を見渡す視野を持ち、若手教職員の模範となりながら、職務遂行能力を更に高めている。

実践力の発展期（16～25年）

〈教諭・養護教諭の目指す教師像〉

中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教員の資質向上を支援しながら、校内外に広く目を向け、関係者と連携して学校運営を牽引している。

〈栄養教諭の目指す教師像〉

中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教職員の資質向上を支援しながら、施設内外に広く目を向け、関係者と連携して施設運営を牽引している。

＜計画書の作成③＞

具体的には、「実践力の充実期」「実践力の発展期」における各職種を目指す教師像は、上記のとおりになります。

教員等育成指標には、その他に、教諭の方は「3つの力（学習指導、生徒指導、マネジメント）と4つの視点（復興教育、キャリア教育、特別な配慮を必要とする児童生徒への教育、ICTや情報・教育データの利活用）」、養護教諭・栄養教諭の方は「専門領域における職務及び2つの力と4つの視点」の記載がありますので、内容を確認しながら実践を積んでいくことになります。

留意点は、小・中学校等で一般的に行われている校内研究のテーマが、そのまま自己研修のテーマにはなりにくいという点です。校内研究のテーマを自己研修のテーマとして掲げることが、教員等育成指標に示された「実践力の充実期」や「実践力の発展期」の内容などに繋がるものであるかどうかは、吟味が必要です。

4～5月

Plan

Do

Check

Action

テーマ解決

12～1月

1～2月

自己研修シェアリングで使用する【様式2】を提出

(事前提出用)
【様式2】

自己研修シェアリング

学校名： 氏名：

<自己研修テーマ>

	記入欄
テーマ設定の理由	
・そのテーマを選んだ理由	
・この指導よっての効果の見通し	
手立て	
・具体的な取り組み方法、流れ	
実践の様子	
・実践してみても感想、効果	
実践結果の分析・考察	
・課題の対象と変更の分析、考察	

提出方法、提出締切は後日各実施機関から通知

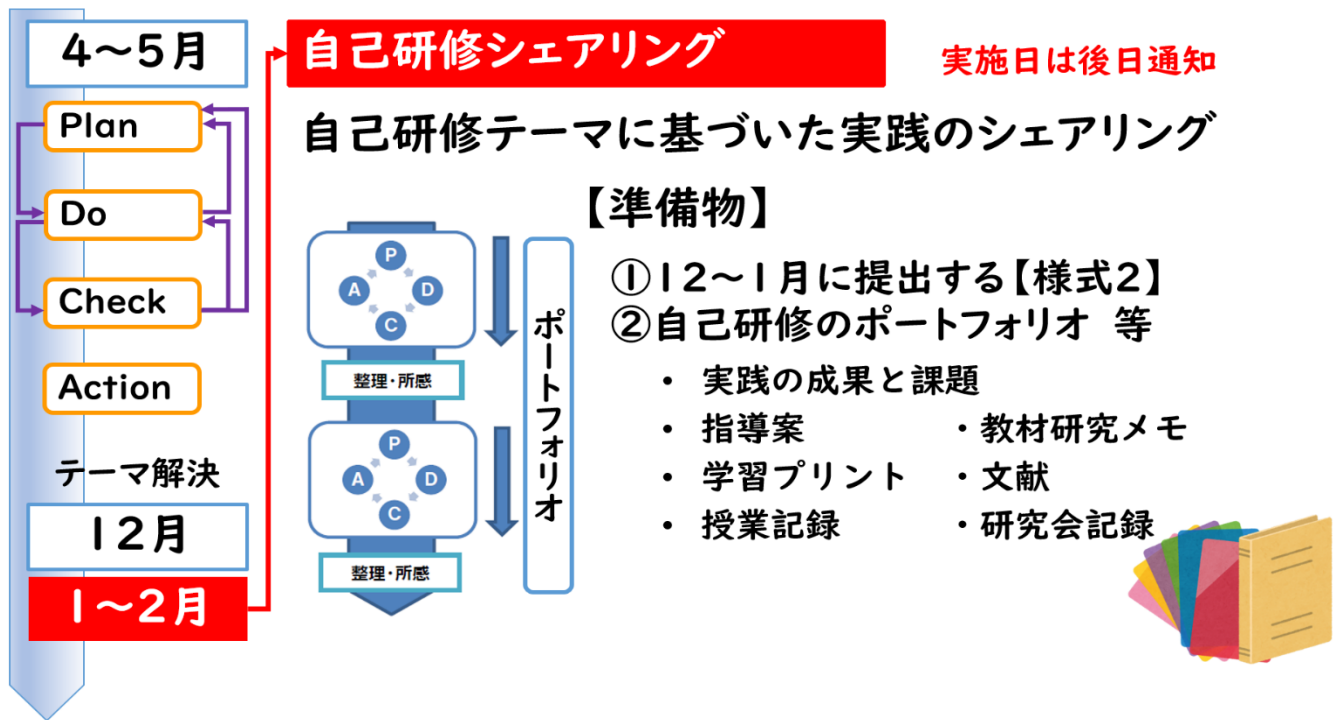
【様式2】のWordデータは、総合教育センターHPからダウンロード

トップページ > 研修 の画面中段「自己研修の進め方(令和6年度)」

→ 最終提出に向けて、計画的に作成すること

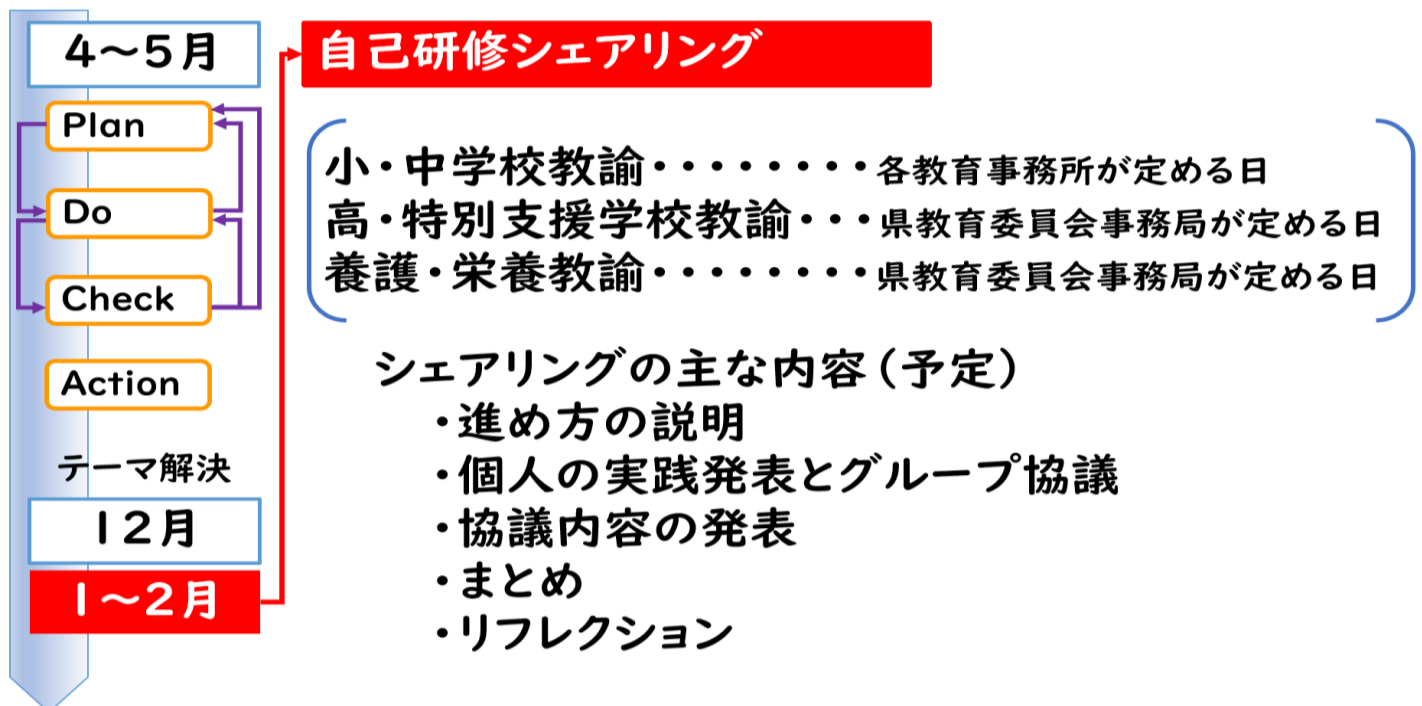
＜自己研修シェアリングで使用する【様式2】＞

自己研修は、PDCAサイクルを回しながら12～1月まで実践を積み重ねます。そして、積み重ねた実践は、上記に示す【様式2】にまとめてください。自己研修シェアリングでは、この様式をもとに発表を行います。様式のデータは、センターHPからダウンロードすることができますので、計画的に作成してください。



<自己研修シェアリング①>

記入した【様式2】は、12月～1月に小・中学校の教諭は市町村教育委員会に、県立学校の教諭及び養護教諭、栄養教諭は県教委に提出します。その後、1月～2月に自己研修シェアリングを行います。シェアリングでは、指定された時間内で自分の実践を発表し、協議を行います。シェアリングに参加する時は、【様式2】の他に、自分の実践、学習プリント、授業記録、板書の写真等を整理し綴ったポートフォリオ等の実践の記録を持参することをお勧めします。実践を整理し、所感を添えながら時系列にファイリングしていくことは、課題解決の足がかりとなり、PDCAサイクルの循環にも繋がりますので、記録を綴る作業を大切に実践を積んでください。



<自己研修シェアリング②>

自己研修シェアリングは、小・中学校の教諭は、教育事務所が行います。高校、特別支援学校の教諭と、全校種の養護教諭・栄養教諭は県教育委員会事務局が行います。

実施日と実施方法は、別途通知されます。

シェアリングの主な内容は、上記の項目のとおりです。

校長及び教員としての資質の向上に関する指標(教員等育成指標)

(教諭)	キャリア・ライフステージ 年齢 (目安) 教職経験年数 (目安)	基礎力の形成期 (23歳～27歳) 1～5年	実践力の向上期 (28歳～32歳) 6～10年	実践力の充実期 (33歳～37歳) 11～15年	実践力の発展期 (38歳～47歳) 16～25年
	校内での役割		学級担任、副担任等		
目指す教員像	初任校における学校勤務の経験を通じて、教育活動に関する基礎的な職務遂行能力を身に付けている。	複数の学校勤務の経験を通じて、教諭としての基盤を確立し、自らの実践を常に振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。		学校運営の中堅として、学校全体を見渡す視野を持ち、若手教員の模範となりながら職務遂行能力を更に高めている。	中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教員の資質向上を支援しながら、校内に広く目を向け、関係者と連携して学校運営を牽引している。
岩手の基本研修 (キャリア・ライフステージに応じた基本研修)	初任者研修 2年目研修 3年目研修	教職経験者 5年研修 (6年目)	中堅教諭等 資質向上研修 (11年目)	ステージアップ 研修<前期> (45歳～)	

自己研修の取組は、教員等育成指標のキャリア・ライフステージに示された内容に迫るものであること。

2 学習指導力	カリキュラム・マネジメント	教科教育等の専門性	確かな学力を育む授業
3 生徒指導力	発達支持的生徒指導		

<最後に>

自己研修の取組は、教員等育成指標のキャリア・ライフステージに示す「目指す教師像」と、教諭の方は「3つの力と4つの視点」、養護教諭と栄養教諭の方は、「専門領域における職務及び2つの力と4つの視点」の内容に迫るものとし、メタ認知をしながら実践を積んでください。その際、周囲との対話を大切にしながら、児童生徒と共に成長していくことを願っています。

※ 総合教育センターHPに掲載されている資料「教員のための自己研修の進め方 アクション・リサーチの手法を用いて」も参考にしてください。